

第3回 ジェンダー平等ミーティング

- ・7月29日(火) 10:30~
- ・テーマ「学校とジェンダー」
- ・講師：藤野 敦子 さん
(京都産業大学教授)



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



7/29



第3回

「学校とジェンダー」

講義では、「ジェンダーとは何か?~ジェンダー不平等が生じる根本理由を考える」のテーマのもと、ジェンダーの言葉の始まりから、目に見えない規範に従う中で、無意識のうちに不平等を生み出していること、でもそれに気づいて行動することで、変えていくこともできるという強いメッセージをいただきました。

意見交流では、「学校の校則(ルール)」について」ディスカッションをしました。

「ジェンダーとは何か?~ジェンダー不平等が生じる根本理由を考える」

講師:藤野 敦子さん(京都産業大学教授)

1. ジェンダーとは何?

- ジェンダーとは: 欧米諸国から始まった考え
ジェンダーは「分類/種類」という意味
- 世界にはモノに性別がある言語がある
太陽の性別は国や時代によって違う
- なぜ、モノも性別で分類しているの?
もともと分類することは人間の性質(情報の整理)
- 欧米言語などを学ぶのは難しい?!
言語を学ぶときに、性別を合わせて覚えなければならない。
- 言葉と文法の関係って?
(昔) 話す → 文法
(現在) 文法 → 話す
現在はルールにしたがって話す。ルールから外れることが難しい。
文法は変化しない。でも、新たな話し方をする人が多くなれば、
文法は変化する。

- 1960年代後半から欧米社会で起こった出来事フェミニズム運動の際に「ジェンダー」の概念が誕生
ジェンダーは、「社会や文化の中で作られた性別」の意味に
皆で行動を変えれば、ジェンダー役割は変更できるはず。社会で決めつけられた性役割は人の可能性や自由を奪っているのだから
- 自然科学の知識は、絶対的な真理か？
→絶対的真理のように考えられるが、科学者のコミュニティ（社会）の中で決められることも多い！
- ヒトの性別に関する議論
2010年頃、人の性別を2つから3つへと変更した国
インド・ネパール・オーストラリア・ニュージーランドなど
性の多様性も理解されるように

2. なぜ「ジェンダー不平等」が生じるの？

- 近代の価値観により、性別で分業する「社会システム」ができあがる。

・生じた問題

家庭の問題は公の議論にならない。

女性は無償で家庭のケアを

異性愛・生殖の重要性（女性は性の対象に、同性愛の差別など）

理想とすべき男らしさ＝支配的で、競争で成功すること

・世界各国で残る近代以降の社会システムから来るジェンダー不平等
社会の規範（ルール）として皆が実践することで不平等が固定化。

変革できるものだが変革は難しい。

特に日本は、世界的なフェミニズム運動の影響をあまり受けなかった。

近代的なシステムの影響がまだ残っている。世界の中でも日本は、

ジェンダー平等の遅れた国に

3. ディスカッション

学校の校則（ルール）について考えよう

・頭髪（髪型）に関する校則は必要、必要ではない？

・もし、あなたが校則を変えたいと思ったとき、どのような方法をとりますか。

感想

・仕事は「男」や、家事育児は「女」という社会的役割を性別で分けるというジェンダーは、欧米言語の単語の分類と似ている、というアン・オークレイの言葉がすごく腑に落ちて心に残った。

・話を聞いて自分の学校の校則について振り返ることができました。私の高校では意見箱があり、私はそこで集められた意見への先生の回答をまとめています。体操服で下校したいといった意見も多くありますが、校則を変えるということにはなかなかありません。意見箱の使い方について考えるきっかけになりました。

・ファミニズム運動の影響をあまり受けなかった日本はジェンダー平等の観点から見ると遅れており、私達が変わっていくことができればいいなと思いました。

感想

・今回のミーティングに参加させていただき、この社会で問題視されているジェンダー問題について、改めてどのような意識を持って向き合っていけばよいのか再確認することができました。僕自身もこの問題について、日本の取っている遅れも含め、早急にかつ慎重に改善に向けて取り組んでいくべきものであると考えていて、その第一歩の助言をしていただけたように感じました。社会のシステムによって決められたルールなどに縛られすぎず、声を上げていけるよう、自分自身も頑張っていきたいです。

・他の国では物にも性別があったことを初めて知ってびっくりした。でもその中には自分のイメージの性と同じものもあって他にどんなのがあるのか気になった。日本は世界的にもジェンダー平等が進んでいないからもっとその課題に向けた取り組みをしていくべきだと思った。また、人々の意識も変えていくことが必要だと思った。

感想

- ・世界における性、ジェンダーの多様性についてよく理解することができた。又、それらに対する自分の意見と他人の意見を交流することで、より深い理解につなげることができ、良かった。
- ・自分が中学生や高校生であった時には気づかなかったことについて、今ならおかしいと気付けた。ルールを変えるためには少数だけではなく、できるだけ多くの人の意見を集めることが大切なんだとわかった。また、西洋から入ってきた価値観が日本にも伝わり、それが日本の近代化を進めてきた面もあるが、西洋が克服した性差別について、日本が是正できるのはいつなのだろうかと思った。
- ・私と話した高校生達は中学時代、男子はズボンのみ女子はスカートのみという校則が変わったと話していました。変化を目撃したことで、ルールは変えられるという意識が出来ているのかなと感じました。